

社内展開ガイド A4雛形

Day2 の終盤に、A4 1枚をその場で書き上げます。

Day2 の終わりに、この雛形の上で A4 1枚を書きます。読む相手は、2日間の研修に出ていない運用メンバーです。

書けたかどうかの判定は1つです。作成者以外の1名が、このガイドだけを見て設定を1つ入れ直せること。入れ直せなければ、粒度が足りていません。

各項目に記入例を付けています。記入例の行は消して、自分の内容に置き換えてください。

1. 何を

追加したものを、ファイル名で書きます。機能名では探せません。

ファイル	何をするもの
記入例: <code>.claude/hooks/check-phpver.ps1</code>	記入例: PHP ファイルを編集した直後に走り、5.4 で動かない構文があれば AI に差し戻す

2. どこに

置き場所と、効かせるための登録先です。ファイルを置くだけでは動かないものが混ざっています。

ファイル	置き場所	登録先
記入例: <code>check-phpver.ps1</code>	記入例: <code>D2/.claude/hooks/</code>	記入例: <code>.claude/settings.json</code> の <code>hooks.PostToolUse</code> 、 <code>matcher</code> は `Edit`

ASCII の制約に触れる場合は、ここに書いてください。

記入例: このフックは PowerShell 5.1 で動きます。コードとメッセージは ASCII のみです。日本語のメッセージを入れると、CP932 環境で実行時の出力が壊れます。

3. なぜ

1行ずつ、入れなかったときに何が起きるかを書きます。「品質向上のため」は理由になりません。半年後に外す判断ができません。

ファイル	入れなかったときに起きること
記入例: <code>check-phpver.ps1</code>	記入例: CLAUDE.md に書いた制約は数ターンで薄れ、 <code>??</code> が混入する。CI の <code>lint-phpver</code> は <code>php:7.4-cli</code> なので、 <code>::class</code> と <code>finally</code> はそこも通り抜けて本番で落ちる

4. 壊れた時の戻し方

止まったときの見分け方と、戻す手順です。ここが書けていないと、最初のトラブルで全部が外されます。

症状	見分け方	戻し方
記入例: 編集のたびに差し戻される	記入例: <code>[check-phpver]</code> で始まるメッセージが出ている。行番号と構文名が付いている	記入例: 指摘された行を代替の書き方に直す。誤検出のときは <code>phpcs</code> を入れる。緊急で止めるなら <code>settings.json</code> の <code>hooks.PostToolUse</code> の該当ブロックだけを外す。ファイルは消さない

止め方を「ファイルを消す」にしないでください。消すと、次に入れ直す人が最初から作ります。

5. 担当と連絡先

項目	記入欄
このガイドの担当	
設定を変えるとき相談先	
変更の記録場所(MR かドキュメント)	
次の見直し日	

6. まだ入っていないもの

入れなかったものを書いておくと、次に足す人が同じ検討を繰り返しません。

項目	入れなかった理由
記入例: OS のサンドボックス	記入例: Windows では Seatbelt も bubblewrap も動かない。守りは deny とフックの2層で、3層目は無い

書き終えた後の確認

- 作成者以外の1名が、このガイドだけを見て設定を1つ入れ直せた
- ファイル名がすべて実在する。研修中の仮の名前が残っていない
- 「なぜ」の欄に、起きることが具体的に書いてある
- 戻し方が、ファイルを消す以外の手順になっている

